



Rotary
Club of KOBE EAST



The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報

No.391 2019-2020 No.2

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／須藤 雄二 副会長／井元 憲生 幹 事／吉田 茂 広報委員長／石橋 恒生 副委員長／小谷 哲也
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日



クラブ会長テーマ「クラブライフを通じて世代を超えた繋がりを」

Vision is dream with purpose



RI President

MARK DANIEL MALONEY
2019-20年度国際ロータリー会長





国際ロータリー第 2680 地区
ガバナー 浅木 幸雄

本年度ガバナーを拝命致しました浅木でございます。令和改元の記念すべき年度にあたり、皆様の神戸東ロータリークラブへの訪問を光栄に存じあげ、貴クラブより賜りましたご配慮にこころから感謝申し上げる次第です。

さて、マーク・ダニエル・マローニー今年度 RI 会長の掲げるテーマは「ロータリーは世界をつなぐ Rotary Connects the World」であります。さらに四つの強調事項として

1. 多様且つ新たなモデルの会員増強、クラブの結成を以て会員基盤の拡大を図る
2. 家族、ロータリーの時間が互いに競合せず、補完し合うような文化を築く
3. 多忙な日々の仕事との両立を可能とする柔軟且つ現実的なリーダーシップの変革
4. 国連とのパートナーシップを強化するため、世界の人々がつながり、行動が可能なロータリーのインフラを提供する

以上の「つなぐ」「行動する」指針に基づき、会員基盤の拡大を以てロータリーを成長させよう、と呼びかけています。

これを受けて、わたくしの行動指針は「地域社会をつなぎ (Connect)」「多様性に富んだ会員組織に変革する (Transform)」とし、今年度の地区運営方針を「つなぐ」を Key Word として以下の通り策定致しました。

- ◆ RI テーマおよびロータリーの目標達成（会員基盤の成長=つなぐ）を目指す
- ◆ 女性会員・若い会員を増強し、多様な人々をロータリーでつなぐ
- ◆ 公共イメージと認知度の向上を図り、地域社会とロータリーをつなぐ
- ◆ ロータリーのプログラムを積極的に活用し、安心・安全をモットーに青少年と世界をつなぐ
- ◆ My Rotary を通じて、ロータリー情報を取得・発信することによりロータリーと世界をつなぐそして顕在する当地区の課題を解決するため
- ◆ 地区活動のさらなる効率化・活性化を図る

これら各項目の推進を通じて、以下の数値目標を掲げております。

- 会員増強 各クラブ純増 1 名
- My Rotary 登録率 70%
- ロータリー財団年次基金 1 名あたり 160 ドル
- ポリオ基金 1 名あたり 30 ドル
- 米山基金奨学金 1 名あたり 17,000 円

それぞれ項目の詳細につきましては、先に配布致しました「2019 年度地区研修・協議会報告（月信第一号分冊）」をご精読願えれば幸いです。

地区活動唯一の要諦は「各クラブの円滑運営と活性化に資すること」であります。今後皆様に拦かれてはガバナー補佐を通じて忌憚なくご要請、ご相談下さい。

本年度神戸東ロータリークラブのますますのご発展を祈念しつつ、わたくし並びに地区活動に対するご理解とご協力を切に願い、此度のご挨拶とさせていただきます。



職場訪問 自然との調和を図った「麒麟ビール神戸工場」を見学



10月29日、例会終了後の13:40に、会員34名でホテルオークラをバスで出発し、麒麟ビール神戸工場へ向かいました。

工場を見学した後、片山副工場長に神戸工場の歴史や、ビール工場の役割などのお話を伺いながらの試飲は、神戸東RCに入っていて良かったとつくづく思ったと口々に聞きました。

自然との調和を図った工場にて、麒麟の社会課題の取り組みやビール普及への並々ならぬ職業奉仕に感銘を受けた訪問になりました。

過分なご配慮をいただいた当クラブの田島支店長に感謝いたします。

奉仕プロジェクト委員会
職業奉仕委員長 工藤恭孝



ロータリー米山記念奨学生 邵 帥
(ショウ・スイ)

「鑑真の故郷から日本へ」

みなさん、こんにちは。ロータリー米山記念奨学生の邵帥です。今から卓話を始めさせていただきます。卓話のタイトルは「鑑真の故郷から日本へ」となっております。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、改めまして、自己紹介をさせていただきます。

私は邵帥と申します。この2つの漢字は日本語の中に珍しい漢字だと思います。しかし、「帥」という文字は「教師」の「師」と似ていますので、よく間違われています。実はこの2つの文字（「師」「帥」）を一緒に並べて見ると、多分すぐ分かると思いますが、右上の部分は異なります。少し覚えていただければと思います。そして、私は平成2年5月生まれで、出身地は中国江蘇省揚州市です。後ほど詳しく紹介致しますので、お楽しみになさってください。現在の所属は神戸大学大学院国際文化学研究科情報コミュニケーションコースであり、ここは文理融合のコースであり、現在の研究分野も教育学という学際的な分野であります。研究内容も後ほ

ど説明致します。また、自分はちょっとマニアックな趣味を持っております。それは休日のときに、家電量販店でウィンドウショッピングをすることです。電子製品全般に興味を持っており、店で最新型のパソコン、スマホ、掃除ロボットなどを体験するのが楽しみです。ここで自己紹介を一旦終わりにしたいと思います。

続きまして、私の故郷である揚州を紹介し、アピールしていきたいと思っております。実は日本に参りまして、必ず聞かれるのは「出身は中国のどこですか?」という質問です。もしいきなり「揚州」と答えましたら、相手の方がわからない可能性が非常に高いと思っております。そのため、今日は地図を持ちまして、説明していきたいと思っております。ご覧の通り、こちらの中国の地図の中に、赤い部分は首都の北京であり、黄色い部分は上海となります。上海と隣接している緑の部分は江蘇省です。その中に、水色の三角形は江蘇省政府所在地の南京であり、ちょっと上の星印のところは揚州となります。揚州は小さい都市でありながら、歴史に名を残した偉人の故郷です。その偉人は国境を超えて、日本でも知名度が高いと日本人の友だちが教えてくれました。発表のタイトルは既にネタバレとなりますが、揚州は鑑真大和上の故郷です。彼は奈良時代に日本に帰化した律宗の開祖となった人物です。数多くの苦難を経験し、最初の5回の渡海が全部失敗しまして、視力も失いました。6回目の渡海でようやく日本にたどり着き、その後、日本で戒律を伝え、唐招提寺を建てました。天皇を始めとする多くの人に授戒をされた鑑真大和上は日中友好の象徴と言っても過言ではないと思っております。

それ故に、2010年に奈良と揚州は友好都市の提携を結ばれました。実は、1973年に唐招提寺をもとに揚州に鑑真記念堂が建てられました。それだけでなく、現在毎年4月に唐招提寺の中に揚州の名

花である瓊花が一般公開され、同じ時期に鑑真記念堂の周辺に日本から頂いた桜も満開を迎えます。揚州は本当に日本とゆかりの深い都市であると思っております。

揚州は中国では知名度が高いです。なぜかという、昔から揚子江と京杭大運河が交差する交通の要衝として繁栄しました。唐の時代の有名な詩人李白の詩「故人西辞黄鹤楼、煙火三月下揚州」には出現したこともあります。この詩は中国の小学校の教材にあり、知らない中国人はほとんどいないと思えます。日本語に翻訳すると、「古くからの友人は、西にある黄鹤楼で別れを告げ。花が咲き春の霞が立つ三月に、揚州へと下っていった。」となります。歴史の長い都市であるため、観光名所もたくさんあります。ここでは、2つをピックアップして紹介していきたいと思えます。まずは中国の四大名園の1つである个園です。个園は清の時代に造られ、元の所有者の好物は竹となりますが、「竹園」という名前はあまりにも普通過ぎますので、「竹」の半分を切り取って、「个園」と名付けたとされています。个園の中央で枯山水を利用して作った「春夏秋冬」という四季の景色を見ることができ、ほかにも見所一杯です。下の写真は新の乾隆帝が愛した瘦西湖の五亭橋となります。瘦西湖は揚州随一の観光地であり、杭州の西湖より細長い名付けたとされています。瘦西湖の一番の見所は五亭橋です。大きく頑丈の石の土台の上に、木造の五つの亭が乗っています。ここは揚州のシンボルといっても過言ではありません。

それに、先程の観光名所以外に、揚州について中国人なら誰でも知っているのは淮揚料理(揚州料理)となります。中国で最も一般とされている四大料理および八大料理の中に入っています。ちなみに、中国での四大料理は淮揚料理以外に、四川料理、広東料理と山東料理が入っています。北京料理や上海料

理がありません。淮揚料理は日本では知名度が低いですが、私的には有名の四川料理より日本人のお口に合うかと思えます。淮揚料理の特徴は全体的にあっさりとした味で、旬の素材の旨味を活かすことを重要視しています。ここでは、代表的な淮揚料理を紹介していきたいと思えます。左側の「大煮干絲」は干した豆腐を細切りして、野菜やエビ、鶏肉などを入れて鶏のスープで煮込んだものです。素材の味がしっかり味わえる、優しい味付けの料理です。右側は「蟹粉獅子頭」という料理であり、名前だけではライオンを食べてしまうのかと思うかもしれませんが、実は大きな肉団子を土鍋で煮込んだ料理で、中には蟹の肉とカニ味噌も加えられ、とても人気があります。また、こちらの左側は「文思豆腐」という有名な料理であり、特徴は豆腐が糸のように細く切られて、口に入れるとすぐ溶けるほどの柔らかさです。右側は世界中の中華レストランのメニューには出てくる有名な「揚州炒飯」です。日本の中華料理店でも目にされているかと思えます。さらに、揚州の点心・飲茶も有名であり、左側の「翡翠焼売」の中に、もち米、青梗菜と豚肉が入っています。日本の焼売の中身は全部肉ですが、揚州の場合はもち米がメインで、肉が少ないです。右側は「三丁包子」であり、「三丁」は中には鶏肉、豚肉と椎茸の角切りのことを指しています。皆さん、いかがでしたか。先程、揚州の魅力のほんの少しだけ紹介させていただきました。少しご記憶の片隅にでもお留めいただければ幸いです。今後もし機会がございましたら、ぜひ揚州にお越しください。

揚州は私の大好きな故郷ですが、高校卒業してからそこにいる時間が少なくなりました。大学の4年間は山東省で過ごして、その後香港に行きまして、修士学位を取得しました。その時は語学の勉強がメインであり、言語の学習に魅力を感じていますが、同時に言語習得の難しさも痛感しています。文系の



学生ではありますが、科学的に言語を処理する技術にも関心を持っており、人工知能が急速に発展している流れの中、技術をどのように利用して語学学習に支援を提供できるか自然と考えはじめました。したがって、外国語学習における自然言語処理技術の利用について興味を抱くようになり、自身の日本語の知識を、日本人中国語学習者の支援に役立てたいと考えました。神戸大学国際文化学研究所情報コミュニケーションコースは文理融合型であり、文系出身の私にとって最適な研究機関であると考え、その環境で研究を行うことを希望し、私は来日しました。

現在の研究テーマは「外国語教育における形成的フィードバックシステムの提案に関する研究」となっております。本研究の背景として、以下のことが挙げられます。

外国語教育現場では、フィードバックが教師にとって大きな負担となっています。しかし、4技能のうち、ライティングが自然に身に着けにくいスキルと言われており、フィードバックが必要とされています。したがって、学習支援システムにおける自動フィードバックの提供が重要であります。先行研究により、既存のシステムの指摘が不明瞭であり、学生から推敲が見られていないということが指摘されました。指摘された問題を解決するため、形成的フィードバックが学習者の自律学習のサポートとして重要視され、システムにも取り入れています。形成的フィードバックは学習プロセスを支援し、学習効果を向上させるために学習者に与える情報として定義されています。しかし、中国語教育現場における形成的フィードバックを提供するシステム構築に関する研究が待たれています。

したがって、本研究では、カリキュラム上の文法項目を対象に、授業の進行とともに、学習者の文法項目への習得状況を追跡し、形成的フィードバック

を行うシステムの提案を目指しています。

具体的には、テキストにおける文法項目をデータベースに登録しました。そして、文法の特徴により、一連の自然言語処理技術を駆使し、文法を抽出するアルゴリズムを提案し、実装を行いました。このスクリーンショットで表しているように、学生の解答から文法項目を抽出し、正誤の判決を行います。その後、同じ文法項目が含まれる文章の学習履歴と照合し、追跡フィードバックを提供します。これからは、フィードバックの内容を増やして、教育現場でシステムの有効性を検証する実験を行う予定です。

この半年間、奨学金を頂きまして、学業にもっと専念できるようになりました。去年1年間で論文2篇を投稿しましたが、この半年間論文3つを投稿しました。1つ目の論文は先月名古屋に日本教育工学会全国大会で発表いたしました。2つ目の論文は第一著者である指導教員の先生が先月ドイツで発表を行いました。3つ目の論文は8月に投稿して、先々週によろやく採択の通知が来まして、12月にインドネシアの国際会議で発表する予定です。

ロータリークラブとカウンセラー神田先生をはじめとするロータリアンの方々のおかげで、日本に5年間過ごしてきた私は、最も充実な半年を過ごしました。経済的なサポートだけでなく、就職などについて親身に相談に乗ってくださり、貴重なお話を伺うことができました。また、毎月お世話クラブの例会に参加いたしまして、様々な分野の最前線で活躍していらっしゃるの方々のお話を伺い、大変勉強になりました。数多くのイベント及び交流会にもお招きいただき、交流の輪が広がり、今までにない体験ができて、心より感謝を申し上げたいと思います。

この半年間本当に多彩なイベントに参加させていただきました。左側は6月の研修会の後に作ったケーキです。全くの素人でも、用意された素材を使っ

て、美味しいケーキを作ることができました。右側は神田先生のお言葉に甘えて、一緒に甲子園で野球を観戦したときの写真です。初めての野球観戦なので、ルールについて分からない部分がありますが、ホームランまで見ることができ、阪神タイガースも勝利を収めました。現場の熱気に圧倒され、本当に楽しかったです。また、8月にお世話クラブである神戸東ロータリークラブからお誘いいただき、今まで一番素晴らしい花火大会を観賞できました。また、先月の親睦会にも参加いたしまして、美味しい料理をいただき、人生の先輩である皆様から貴重な話を伺うことができました。それに、先週の土曜日に学友会が主催した日帰り研修旅行にも参加しまして、たくさんの学友たちと知り合い、普段あまり接触のない分野で活躍していらっしゃる方々の話を伺え、良い刺激になりました。学友たちはみんな優しくて優秀であり、研究と仕事についていっぱい教えていただきました。さらに、ロータリークラブのおかげで、私は日本で初めて揚州出身の留学生に会いました。しかも、同じ高校出身であり、同じく今年から奨学生となった方です。縁は本当に不思議なものであると思いました。

今から振り返ってみると、大変お世話になっており、感謝の気持ちが一杯です。この御恩を決して忘れずに、これからも奨学生に採用していただいたことに恥じぬよう、両国との架け橋になれるように日々精進していこうと思っております。

今後とも宜しく願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。





ロータリー財団委員会
委員長 中井 章詞

国際ロータリーのロータリー財団 誕生と変遷

ロータリー創立の動機（シカゴ・ロータリークラブ（1905年））

自由主義経済が過熱し過当競争や誇大広告、不正が横行、商道德の欠如する風潮に耐えかねた青年弁護士ポール・ハリスは、友人3人と、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いが親友関係にまで発展するような仲間を増やそうと考え、1905年2月23日に発案者の弁護士ポール・ハリス、石炭商のシルベスター・シール、鋳山技師のガスターバス・ロア、仕立て屋のハイラム・ショーレの4人で最初の会合を開いたのがロータリーの始まりです。

初期のロータリーの思考：シカゴ・ロータリークラブの最初の目的

創立の翌年1906年、シカゴ・ロータリークラブは、「クラブの目的」として、第1:本クラブ会員の事業の利益の増大。第2:通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特に必要と思惟する事項の推進をあげ、会員間の相互扶助による会員の利益と社交クラブとしての親睦が謳われました。

アーチ・クラフ基金創立：1917（大正6）年当時の世界情勢

1917年のアトランタ大会で、当時のアーチ・クラフ会長の提唱「Doing Good in the World：世界でよいことをしよう」によってロータリー財団の前身であるアーチ・クラフ基金が創立されましたが、1917（大正6）年当時の世界情勢では1914年7月28日から1918年11月11日にかけて第1次世界大戦が勃発しており、戦争のさなかという背景もあり、当時のロータリアンの多くは無関心で、むしろ、「ロータリー運動に金銭的奉仕を持ち込むな」という反発が起こりました。こうした中、寄付者は全くなく、基金は次年度大会をホストすることになっていたカンザスシティ RCが拠出した26ドル50セントでスタートしました。現在の価値に直すと6万円ほどで、基金というには余りにささやかなスタートでした。その後も、多くのロータリアンは基金に対して冷淡で、「財団はクラフの他愛ない夢」と冷やかされていたそうです。

ロータリー財団成立

アーチ・クラフは遙か遠い先の「未来の夢」を見据え活動を続け、1928年、ミネアポリス国際大会で「アーチ・クラフ基金」は5千7百39ドルの基金を以て「ロータリー財団」になり、クラフが初代管理委員長に就任しました。

このとき彼は「我々はこの財団を、今日・明日のものではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきだ。なぜならロータリーは幾世紀にも亘る運動だからだ」と言う言葉を残しています。

ロータリー財団発展の転機－1：第二次世界大戦の終結

財団の発足以来ずっと、「金銭的奉仕はロータリーの第一義ではない」との考えから、長らく財団に対するロータリアンの態度は冷淡でしたが、1945年、第二次世界大戦が終結し、二度の世界大戦を経て転機が訪れました。「世界平和」がロータ

リーの一大テーマとなり、ロータリアンの間では、世界平和構築の気運が高まり、様々な活動のアイデアが提案されました。しかしながら、個々のクラブ単位では、それらを前にして、地理的・規模的な限界から、実現は困難でした。そこで国際ロータリーは財団に、「ロータリアンの国際協力の受け皿」という役割を期待する様になりました。

ロータリー財団発展の転機－2：ポール・ハリスの逝去

そんな中、財団の第2の転換点となったのが1947年1月のポール・ハリスの逝去でした。彼は遺言で、「葬儀の献花に代えて、そのお金を国際理解推進のために、財団に贈ってほしい」と表明していました。これを受けて、1947年、追悼寄付の受け皿として財団に「ポール・ハリス記念基金」が設置され、翌年7月までに130万ドル以上が寄せられました。現在の価値に直して、1千300万ドル、実に14億円以上に相当する額です。こうして財団は、ポール・ハリスの悲願であった「善意による戦争の予防」に向けて、脚光を浴びることとなりました。

ロータリー財団の理念と目標

財団というと一般的には「寄付をする団体」というイメージですが、アーチ・クランプは「ロータリアンの奉仕を支えるための基金」として考えていました。アーチ・クランプは「お金だけでは大したことはできない。個人の奉仕はお金なしでは無力だ。この二つが組み合わせれば、文明への天の恵みとなり得る。」と言っています。つまり「Money × Service = Value」と考え、どんな高価な寄贈品も、相手のニーズにマッチしていなければ意味がない。奉仕に於いて、お金やモノを「本当に価値あるもの」にするのは、相手の立場になって他人を思いやる人の心で、これこそロータリー財団の本来の存在意義と思われれます。

また、アーチ・クランプは、The Rotarian の

1929年4月号に「ロータリー財団は、煉瓦や石の記念碑を建てるものではない。例え大理石に碑銘を刻んだとしても、やがては崩れてしまう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまう。だが、人々の心の中に碑銘を刻むなら、我々が刻んだものは永遠に輝き続けるであろう。」財団の目的は、お金やモノのような「目先のこと」ではない、と書いています。これはポール・ハリスの悲願であった「善意による戦争予防」であり、全ては「世界理解と平和」のためです。平和は天の恵みではありません。コストがかかります。財団が目指しているのは、そのための人づくりです。

1923年セントルイス国際大会：決議23-34は何故、決議されたのか？

1910年代に入って、クラブとしての実践を伴わないロータリーの理念に飽き足らず、クラブとしての金銭的奉仕や身体的奉仕の実践をも積極的にすべきであるという実践派が、1922年のロサンゼルス大会に身体障害児救済事業に関する決議案を共同提案として提出し、理事会はこれを受けて、この事業を奨励する決議22-17を採択しました。

これに対し、シェルドンを中心とするロータリアンの心に「奉仕の心を形成」し「ロータリー創立の理念を守るべき」という理念派との対立が深まり、ロータリーは分裂の危機に瀕します。議論の中心は多額の金銭的支出を伴うクラブによる団体奉仕を、ロータリーの奉仕として認めるか否かでしたが、個人奉仕と団体奉仕、さらには金銭的奉仕の是非にまで話が広がったということです。

国際ロータリー理事会は、最終的に、1923年セントルイスの国際大会で、起草・提案された決議23-34の採択によって、論争の終止符が打たれ、両派の対立は解消しました。

この決議で忘れてはならないことは、第4条でロータリアン個人にも、ロータリークラブにも、奉仕の理念に基づく実践が求められていることを述べたうえで、6-g項に、ロータリーの奉仕活動の実



践は個人奉仕が原則であって、クラブが行う奉仕活動は会員の訓練のための例示であることが明記され、奉仕の実践は、個人奉仕か団体奉仕かという論争に終止符が打たれていることです。

財団の転換：世界社会奉仕活動（World Community Service：WCS）

世界社会奉仕とは、1962年にニッティシ・ラハリーによって提唱された奉仕活動の実践形態で、これまで決議29-12によって制限されていた財政的援助要請の制限条項が撤廃され、発展途上国や開発途上国で、国や行政が地域社会のニーズを満せず、その国のロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、海外の地区やクラブに援助を求め、協力して奉仕活動を行う事が可能となりました。国際奉仕活動に、全世界のロータリアンからの財政的援助を加えることで、大規模なWCSプロジェクトが可能になった半面、お金を出すという行為がロータリーの奉仕活動として認められるという前例を作ったことになりました。

これに対し、直木太一郎 PDG（神戸 RC）は、1967年ロータリーの友で、「国際奉仕の目的は、ロータリアンの世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する事と明記されているので、WCSの活動は国際問題の解決には役立つが、本来の国際奉仕活動ではない。さらに貧困を退治しスラム街を解消しようという活動は、本来、政府や専門団体が行う活動であって、これを重複して行うのは決議23-34の違反である。従ってWCSの活動はロータリーの将来に禍根を残す恐れがある」と主張。日本のロータリアンの多くはこの考えにうなずかれたのではないのでしょうか。

「未来の夢計画」

3年間の試行を経て、2013年7月から財団の活動に於いて、さらに大きな成果をもたらし、一般の認知度を高めるために、効率を高め活動の焦点を絞る必要性が高まった為、新たに補助金のシステムを

簡素化し、資金の集中を図ることになりました。これを未来の夢計画と呼び全世界、全クラブで実行に移されました。

リスボンのロータリー国際大会 2013年6月25日

2013年、国際ロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、ポリオ撲滅活動を支援するために、2013年から5年間、ロータリーがポリオ撲滅に寄せる寄付に対して、ゲイツ財団が2倍の額を上乗せするという契約をしました。これにより、最高総額5億2,500万ドル（525億円）の資金を確保できる可能性があり、達成間近にあるポリオ撲滅活動の後押しとなると予想されますが、益々、人道主義のための金銭奉仕の方向に流れが強まった感は否めません。

最後に

実業家、アーチ・クランフがロータリーと出会って、「世界でよいことをしよう」という小さなひらめきから100年、ロータリー財団は、彼が思い描いていたような、発展を遂げたのでしょうか。財団は、これからも、幾多の変遷を経て新たな道へ進もうとしているのは確かのようにです。

【参考文献】

松嶋 洋子：2019年8月5日ロータリー財団卓話資料より抜粋

田中 毅：源流の会：決議23-34の徹底的解析より抜粋





2018-19 年度 国際ロータリー第 2680 地区

ロータリー青少年交換長期派遣生 清水 恵理

「ハンガリーでの生活を振り返って」

私は昨年8月から今年の7月までの約11ヶ月間ハンガリーに派遣していただきました。私はこの交換留学で多くの壁にぶつかりましたが、乗り越えることができ世界中に友達を作ることができました。また、いろんな国を訪れることでハンガリーだけでなくたくさんの文化に触れることができました。

初めの3ヶ月間はハンガリーの生活に慣れることに毎日必死でした。日本と交通ルールやスーパーでの買い物の仕方の違いはもちろん、特に慣れるのに時間がかかったのはバスの乗り方でした。私は定期を買っていなかったため毎回バスの運転手に目的地を伝え切符を買わなければなりません。なので、一人でバスに乗るときは事前に何番のバスに乗るのか、乗り換えをするのかどうか、そしてどうやって伝えるのか全てハンガリー語で考えなければならぬので常に気を張っていました。この経験から自分で考え行動する力がつき、いろんな場所に一人で行くことができました。

私の通っていた学校では12年生が毎年コンサートを開くので私も参加しました。私はクラスメイト

たちと一緒に歌う曲の他にソロでも歌ったのですが、ハンガリー語で歌うのは想像以上に難しく練習中何度もくじけそうになりました。しかしホストファミリーだけでなくクラスメイトたちが一生懸命私をサポートしてくれたおかげで本番では自信を持って歌い終えることができました。私はここから諦めないことの大切さを学びました。

日本とは違いハンガリーには部活動というものがなかったので、放課後は乗馬や剣道に取り組みました。日本でも少し乗馬はしていましたがハンガリー語での専門用語はこれまた難しく新たな課題が残りました。また、日本では絶対に選ぶことのない剣道も大会に参加するなど貴重な経験をさせていただきました。そこでできた友人たちとは今でも連絡を取り合うぐらいの関係を作り上げることができました。

ヨーロッパツアーでは11カ国を訪れ様々な食文化や言葉に触れ移動するたびにとても新鮮な気持ちになりました。また、周りの留学生が歴史的背景について話している際知らないことがたくさんで自分の知識のなさを痛感しもっと世の中に興味を持とうと思いました。

私はこの交換留学を経験したことで人生が大きく変わったと思います。楽しいことだけでなく辛いことを経験し乗り越えたからこそ大きな自信ができました。留学前は間違えることが嫌で自分から英語を話すことすらできませんでした。しかし色々な国の人たちと出会いコミュニケーションをとることで恥ずかしさがなくなり、たくさんのことに挑戦できました。新しくできたかけがえのない家族、友人たちには感謝してもしきれないぐらいの気持ちでいっぱいです。

私はこれからも語学を勉強し続け世界に出て留学の素晴らしさをいろんな人に発信できたらいいと思います。この機会を下さったたくさんの方々へ感謝しています。ありがとうございました。



「第8回永田 萌さんと王子動物園で絵を描こう」 を開催しました



11月23日(土・祝)、快晴のもと「第8回永田萌さんと王子動物園で絵を描こう」が王子動物園と神戸東ロータリークラブの共催で行われました。約60名の子どもたちとその保護者が参加されました。

上山園長の挨拶に続き、鮑次期会長の挨拶、スライドを使用した動物のお話、そして永田先生の作画の説明と続き、子どもたちは好きな動物の絵を描くために園内に飛び出して行きました。

園内では、永田先生と菅野先生が子どもたち全員へ作画アドバイスをさせていただきました。ボランティアスタッフとして参加してくれたロータリー会員16名と米山記念奨学生のショウ君は、5エリア

に分かれて先生と子どもたちのコーディネートを担当しました。

全員が書き終えた後、ホールに子どもたちの絵が展示され、2人の先生による講評の時間となりました。ほとんどの絵に丁寧にコメントをされ、子どもたちや保護者の方々の喜ぶ顔がとても印象に残りました。

最後に、みんなで記念写真を撮り、楽しい1日が終わりました。

運営に協力していただいたロータリー会員の皆様、ありがとうございました。

(青少年奉仕委員長 樫野 孝人)



絵本作家 永田萌さんと
王子動物園で絵を描こう

絵本作家 永田萌さんと
王子動物園で絵を描こう





忘年家族会を 141 名の参加で開催しました



年末恒例の忘年家族会を 2019 年 12 月 24 日にホテルオークラ神戸平安の間にて開催致しました。会員と会員のご家族、そして米山記念奨学生の邵(ショウ)さん、事務局の皆さんの総勢 141 名参加のもとコーラス同好会とむつみ会の皆さんによるオープニングのあと須藤会長の挨拶、小倉会員の乾杯でディナーがスタートしました。暫くの歓談ののち新会員とご家族の紹介に続いて、58年の長きにわたりクラブの事務局運営に貢献された橘さんに須藤会長より記念品と花束が手渡されました。お楽しみ抽

選会で盛り上がった後は 1 カ月前に宝塚歌劇団を退団されたばかりの芽吹幸奈(メブキユキナ)さんの美しい歌声を鑑賞し、井元副会長の中締め挨拶と出席者全員での手に手つないでの合唱をもって 20:40 に閉会しました。ご参加頂いた多くの会員とご家族の皆様、景品をご恵贈頂いた皆様に心より感謝申し上げます。尚、抽選券の販売による売上金はロータリー財団及び米山記念奨学会に寄付させていただきます。

(親睦・家族委員長 梅田 稔)





神戸市立友生支援学校招待ボウリング大会を開催しました



12月13日（金）に、神戸市立友生支援学校の生徒さんを招待して、毎年恒例となっている、ボウリング大会を開催いたしました。

当日は午前10時から12時までの間、六甲ボウルさんの40レーンを貸し切り、100名を超える生徒さんが各々ボウリングを楽しまれました。

六甲ボウルさんも、友生支援学校の先生の皆さんも、手慣れた様子で取り仕切ってください、無事に終える事ができました。

また、当日は神戸東ロータリークラブより17名

の会員に お集まりいただき、会の運営をお手伝いいただきました。

皆さまにご協力いただいたお陰で滞りなく進行する事ができました。平日の午前中という、お忙しい中、お集まりいただき、心より感謝いたします。

来年1月10日（金）には、青陽東養護学校の生徒さんを招待して、同様にボウリング大会を開催いたします。お時間ある会員はお集まりいただき、ご協力いただければ幸いです。

（社会奉仕委員長 西原興一郎）

神戸市立青陽東養護学校招待ボウリング大会を開催しました



1月10日（金）に、神戸市立青陽東養護学校の生徒さんや関係者を招待して、毎年恒例になっている、ボウリング大会を開催いたしました。

当日は午前10時から12時までの間、六甲ボウルさんの40レーンを貸し切り、約200名の生徒さんが各々ボウリングを楽しまれました。

六甲ボウルさんも、青陽東養護学校の先生の皆さんも、手慣れた様子でいろいろと取り仕切ってくだ

さり、無事に終える事ができました。

また、当日は神戸東ロータリークラブより16名の会員にお集まりいただき、会の運営をお手伝いいただきました。

皆さまにご協力いただいたお蔭で滞りなく進行する事ができました。平日の午前中という、お忙しい中、お集りいただき、心より感謝いたします。

（社会奉仕委員長 西原興一郎）



バルワニ ムケシ —マニックパール—

この度、2019年3月5日に、伝統と歴史のある神戸東ロータリークラブに入会させていただきました、バルワニ、ムケシです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、1970年9月に神戸市の海星病院で生まれました。

家族は妻と一人の娘の3人家族です。

その後、高校を卒業するまで神戸の北野に住んでおりました。

幼稚園は、山本通の光の丘で、小学校は、1年生まで青谷にあります、STELLA MARIS、2年生からは、須磨にあります、MARISTO 国際に転校いたしました。

この学校に、小中高と通い、バレーボール、野球、バスケットボール部と、3つのクラブに所属しておりました。

高校3年生の時にバスケットボール部でキャプテンと生徒会長をしました。

その後、大学はロンドンのリッチモンド大学に行きインターナショナルビジネスの勉強をいたしました。

リッチモンド大学には、2つのキャンパスがあり、1つは、ロンドンのテムズ川があるところのきれいな街にあり、あと1つは、あの有名な Kensington, Harrods の近くにありました。

現在は、神戸の北野に住んでいます。

私の趣味はジムでのトレーニングとソフトボ

ール、それとインドでは、一番メジャーなスポーツであるクリケットをするのが大好きです。

テレビでスポーツ観戦もよく致します。

私の仕事の話をさせていただきます。

私は、1991年にアフリカのナイジェリアにある BL Chanrai Trading Company に就職いたしました。

そこでは、日本の製品である、食品（味の素）、自動車（本田、日産）を、また、中国製のラジカセも販売していました。

その会社には1年間居りました。

1992年に日本に戻り、父のインド雑貨の店である Grand Bazaar に入社し、1994年から Manik Pearl という真珠と宝石を販売する会社に入りました。

その後、2011年に新しいビジネスへの挑戦のために、中近東のドバイとサウジアラビアの任天堂で2年間勉強のために働き、ゲーム機をクウェート、バーレーン、オマーンで販売しました。

その後、ドバイでビジネスをはじめて、真珠、ウォシュレット、ゲーム、カメラを販売しました。その後帰国して、2016年から、Manik Pearl に戻りました。毎年5月と11月に神戸外国人クラブで展示会を開催しています。

最後に私の個人的な話をさせていただきます。

1998年に神戸青年会議所に入会し、2010年に理事長に就任させていただき、非常に素晴らしい経験をさせていただきました。

その間に1999年にインドのムンバイで結婚し、2004年に娘が誕生しました。

最後になりますが、この度多くの神戸青年会議所の先輩が所属されています、神戸東ロータリークラブに入会させていただくことになりました。

どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。





池上 勝義

—若宮保育園—

平成 31 年 3 月 19 日に、伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入会させて頂きました池上勝義と申します。よろしくお願い致します。

推薦は松井氏、田中（健）氏のお二方の先輩です。それでは自己紹介をさせていただきます。

私は、1958 年（昭和 33 年）10 月 15 日に長崎県佐世保市世知原町で生まれました。私の生まれた町は海辺ではなく山間部で炭鉱の町です。オイルショック以前は炭鉱で栄えた町だったと父からよく話をききました。私も小さいころはぼた山に登って真っ黒になって帰ったことを憶えています。私は 1800 グラムの未熟児で生まれ母からはよく聞かせられたのは産声を上げなかったので看護婦さんがお湯と水に交互につけてやっと産声を上げたと言っていました。幼少期は大変からだ弱く病院通いの日々でした。母がからだ弱いのを心配し小学 4 年生から剣道を習い始めてから少しずつ元気になりました。中学校で剣道、柔道と武道に励みました。

高校からはラグビーと出会い人生に大きな影響を受けました。高校の恩師は日本体育大学 ラグビー部出身の先生でラグビーの世界では知る人ぞ知る有名な先生でした。私が 3 年生の時でした全国大会大阪府予選準決勝戦 48 対 10 で勝ちましたが、「何故、50 点取れないのだ」と監督に言われ試合の直後、レギュラー全員スパイクからトレーニングシューズに履き替えて東大阪花園ラグビー場から茨木の学校まで走ったことがあります。その後はもちろん延々

と練習が続きました。鬼のような監督でしたが練習が終わると全員で風呂に入り食事に連れて行ってくれる優しいところもある監督でした。その当時は辛かったですが、今ではいい思い出になっています。

その後、愛知県の中京大学体育学部体育学科に進み、ラグビー漬けの学生生活を過ごしました。ラグビーを通して肉体的、精神的にも強くなれたのは高校の監督、大学の監督二人に生活面、ラグビー指導をして頂いた賜と思います。大学に入ったきっかけは高校の監督と大学の監督が日本体育大学ラグビー部の同期でした。大学の監督に私と一緒にラグビーをしましょうと言われ進学しました。大学に入ると言うよりラグビー部に入部した感じです。大学卒業後は大阪に戻り京阪地区を中心としたスポーツクラブの会社に就職しました。多くのエリアを担当し、いろいろな地域の子供達とふれあいができ楽しい毎日でしたが、3 年で退職してスポーツクラブの経営をはじめました。平成 15 年頃から社会福祉法人あじさい会の山中理事長より法人の立直しのお話がありました。山中理事長は尼崎の開業医で地元では赤ひげ先生と呼ばれていました。生活が苦しくて困っている人には「また、今度で良いよ」と声をかけて無償で治療していたと聞いています。山中理事長のお話を 1 年半悩み、会社を後進に譲るための手続きをして、平成 17 年 10 月、社会福祉法人あじさい会の理事長に就任し現在は認定こども園・保育園の経営をしています。福祉の立場から地域貢献事業を実施していますが、ロータリークラブの基本の精神である職業奉仕理念と通ずるものがあると私は思います。まだまだ、若輩者ではございますが、新たな気持ちで精進してまいりますので諸先輩皆様のご指導ご鞭撻を宜しく願い申し上げます。





木田 耕司

—三菱UFJ銀行 三宮支店—

2019年6月11日に伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入会させて頂きました木田耕司と申します。入会させて頂き、心より御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

早速ではございますが、これから私の自己紹介をさせて頂きます。

お聞き苦しい所、多々ありますがどうぞ、宜しくお願ひ致します。

私は、昭和44年9月27日生まれの50歳で、大阪府八尾市で生まれ、東大阪市で育ちました。この辺りは河内と呼ばれる地域で、司馬遼太郎館、花園ラグビー場などがございます。

現在は、西宮市に会社の寮で単身赴任をしており、東京に妻と子供が一人おります。現時点で8回目の引越ですが、もし家族が迎えてくれるなら、9回目の引越で家族の元に戻ることを期待しております。

私は、スポーツが大好きで、野球、水泳、スキーなどに取組んでいました。特に野球は、小、中、高、大学と続けておりました。高校時代は、人生の師となる西山監督との出会い、技術だけでなく、物事に対する取組姿勢、諦めない心を教えて頂き、自身の人間形成に大きな影響を与えて頂きました。現在でも困難な状況になった時は高校3年間を思い出し行動をしています。

次に社会人となってからについてお話させていただきます。

入行は、六甲道駅近く、2号線沿いにある三和銀行東神戸支店でした。当時は現在の住吉支店、岡本駅前支店も出張所として統括していた支店です。

H5年からH16年までは、11年間、関西で勤務でしたが、東海銀行との統合後UFJ銀行となり、交流人事で5年間名古屋勤務となり、大手自動車メーカーのTier1企業を中心に担当致しました。その後、東京三菱銀行との合併がありました。この頃、銀行は非常に苦しい時代でした。結局UFJは4年間で終わりました。その後、三菱メインのセラミックス関連の大手メーカー、精密機械メーカーを担当させて頂き、アジア、東欧等の進出のお手伝いをさせて頂きリーマンショック前の日本企業がダイナミックにグローバル展開していくのを目の当たりにできる貴重な体験をさせて頂きました。海外出張も多く合併悪くないなと思った記憶があります。

関西転勤の希望をしましたが、旧三菱の上司から、都は東京に移った、東京に行って来いとアドバイスを頂き、H21年から、志村、横浜、渋谷、人事と約9年半東京勤務を致しました。港町横浜の貿易業、渋谷のアパレルIT企業様を担当させて頂きました経験は、現在の三宮支店でも活かしていければと考えております。

現在まで、転勤10回、引越を8回経験しておりますが、新たな職場、新たな街に赴任する度に、その街が好きになり、都度離れるのがつらいと思うことばかりです。24年振りに神戸に戻って参りました。当時担当させて頂きましたお客さまも、現在三宮支店で担当させて頂いており、銀行員としては、非常に幸せです。神戸三宮でも多くの方々と出会い、大好きな街にしたいと思っております。是非、皆様これから宜しくお願ひ致します。





細田 和広

—大和証券 神戸支店—

私の履歴書

現在、日本経済新聞にて弊社前会長で現日本証券業協会会長の鈴木茂晴氏の「私の履歴書」が掲載されております。もちろんあの波乱万丈ぶりに比べると到底おこがましい話ではありますが、本日話をさせて頂くことに少なからずご縁を感じるものからこのタイトルに致しました。

住まい神奈川県横浜市の金沢文庫です。鎌倉中期に北条実時が創設した日本最古の図書館があったのがこの地名のゆえんです。また江戸後期の浮世絵師・歌川広重が描いた金沢八景といわれる八つの景勝地も周辺にございます。

家族は写真に夢中な妻・葉子をはじめ長男、次男、長女の5人です。長男は妻の影響か夢がかないカメラの開発及び製造、次男は警察官、長女は空間デザイナーになるために大学で勉強をしています。

生まれは荒川区南千住、浅草寺から北に5キロほど行ったあたりです。「あしたのジョー」に出てくる丹下ボクシングジムのあったところです。これが悲劇の始まり。とにかく嫌いだったのが毎年GW明けにやってくる三社祭り。皆さん楽しそうにしますが私にとってはつらい行事でしかありませんでした。担ぎ棒から「肩を抜く」なんて言いますが、担いでるふりをしてインチキがバレれば拳が飛んできます。なんといってもつらいのは翌日、肩が何倍にも腫れあがり服が着れません。大抵発熱もします。3日はダメです。(神輿・こぶで検索してみてください)。中学入学と共に小岩に引っ越したのを機会に「ずらかれる！」と喜びましたが周囲が許してくれ

ませんでした。

大学は明治学院大学に進みました。あまりご存じないと思いますが、港区の白金台にあります。品川、目黒、五反田の真ん中でプラチナ通りのあるところです。よく散歩している女優の松坂慶子さんとすれ違いました。高校が男子校だったこともあり、世の中の女性の美しさに初めて気付きました。そんな状況でしたから、入学式の翌日に出会い、初めて会話をした妻と現在に到っている次第です。

1988年4月大和証券に入社しました。NTT上場以降証券市場には大量の資金流入があり株価の上昇を加速させていて、まさに「証券よこんにちは」という時期でした。その後1年ほど株価は更に上昇し1989年の忘れもしない大納会に38915.87円という史上最高値をつけたのです。現在の神戸支店はスタッフ総勢118名で、営業部門のほぼ半数が女性で、入社5年目までの社員がやはり半数を占めます。

入社当時配属になった蒲田支店は見渡す限り男の先輩、たばこの煙と何を叫んでいるのかわからないガラガラ声が溢れていました。

さて、ここで問題です。当時勇ましい先輩営業員の間で流行っていたのが背広の裏地の刺繍でした。鶴や虎など個性的でしたが、ある日本の山がダントツの一番人気でした。

①富士山②開聞岳(薩摩富士)③六甲山 さてどれでしょう？

正解は②開聞岳(買い物だけ)です。多くの買い注文が集まり、お客様の持っている銘柄が値上がりすることを祈願していたのです。

その後、宇都宮→仙台→本店営業部→亀戸(ほぼ生まれ故郷)→新宿→ウエルスマネジメント部(本部)→静岡→そして神戸と。どこも素敵な土地でサラリーマン人生を過ごすことができています。

伝統ある神戸東ロータリークラブに加えて頂き心から嬉しく思っています。皆様にご指導頂きながら神戸でのロータリーライフを楽しみたいと考えております。





▲ 7月16日「平成から令和へ」
名誉会員 五百旗頭 真 氏



▲ 7月23日「ロータリー財団は世界をつなぐ」
パストガバナー 石丸 鐵太郎 氏



▲ 7月30日「秘仏と御開帳」
摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄 巖 氏



▲ 8月20日「まだまだ足りない犯罪被害者支援」
公益社団法人 被害者支援都民センター
公認心理士・臨床心理士 新井 陽子 氏



▲ 9月3日「北前船で神戸魅力再発見！」
よみがえる兵庫津連絡協議会 会長
兵庫津日本遺産の会 実行委員長
兵庫商人十二代目 高田 誠司 氏



▲ 9月24日 最近の情報技術の話題「ブロックチェーンと仮想通貨」
山本 裕計 会員



▲ 10月29日「大阪湾岸道路西伸部等の整備について」
神戸市建設局湾岸・広域幹線道路本部長 名倉 重晴 氏



▲ 11月19日「昼下がり・魅惑のミュージカルソング」
ミュージカルシンガー 松浦 小夏 氏



▲ 11月26日「断食について」
三戸岡 英 樹 会員



▲ 12月10日「ロータリーの学友」
松 下 衛 会員



▲ 12月17日「廣野ゴルフ倶楽部コース改造」
村 元 信 吾 会員



▲ 1月7日「初釜例会」
川 島 宗 治 会員



▲ 1月14日「職業奉仕ってなに？」
職業奉仕委員長 工 藤 恭 孝 会員



▲ 1月21日「SDGs 持続可能な開発目標」
株式会社 ケーティーシー 取締役会長 石 田 雄 三 氏



▲ 2月4日「人間ドック ～いかに健康に長生きするか」
公益財団法人 兵庫県予防医学協会 会長 石 原 享 介 氏



余韻会 (俳句同好会)

令和元年九月五日

於 西村屋 花みかげ

かなかなや風に鳴き継ぎ風に消ゆ

奥田 好子

水音に添ひて新涼流れ来る

執行 執艸

僧堂の静けさ破るあぶら蟬

角田 伯堂

一年生今日見た花火母に告ぐ

則岡 弘士

蝸の鳴き声聞いて家路急ぐ

塚本 宗哲

墓石の未だ建たざり草の花

壺井 仙岳

新涼や足場解体新校舎

吉井 聖倅

蝸の唄こだまする六甲山

関本 剛紀

新涼を鞆に入れてプレゼント

松原 氣宏

新涼や心静かに墨を磨る

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

令和元年十月三日

於 西村屋 花みかげ

露けしや良寛さまの辞世の句

奥田 好子

月光に古代ローマの輪轍跡

角田 伯堂

ラフの中からまるボール朝の露

塚本 宗哲

朝露に小さく映る老ひし我

壺井 仙岳

亡き母の遺影みつめる夜長かな

松谷 泰山

故郷に別れ一礼駅の月

吉井 聖倅

秋の庭遠野民話に聴き入りぬ

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

令和元年十一月七日

於 西村屋 花みかげ

鳥帰る空の一色裏返し

奥田 好子

洋上の点になりゆき渡り鳥

角田 伯堂

子が駆けて親は飛びはね運動会

則岡 弘士

音もなく水面に落ちる紅葉かな

塚本 宗哲

散紅葉心の襷を埋めつくす

壺井 仙岳

鳥渡るベンチに座る犬と猫

吉井 聖倅

茅葺の里は輝く柿の秋

村野 離翔





絵と文 則岡 弘士

「砥峰高原の秋」

この絵は神戸東ロータリークラブ俳句同好会の吟行でススキで有名な砥峰高原へ出掛けた時、私一人だけこっそりグループから離れて持って行ったスケッチブックに描いたスケッチを後に油絵にしたものである。それでも一応一句だけは詠んだ。

寝ころびてしばしススキの葉擦れ聞く
その時の句である。

CONTENTS

ガバナー公式訪問	1
職場訪問	2
米山月間	3
ロータリー財団月間	7
ロータリー青少年交換長期派遣生報告	10
第8回永田萌さんと王子動物園で絵を描こう	11
忘年家族会	13
友生支援学校招待ボウリング大会	15
青陽東養護学校招待ボウリング大会	16
新会員自己紹介	17
例会スナップ	21
余韻会	23

編集後記

第2号の会報をお届けいたします！

年明けからコロナウイルスが気になりますが、2020年いよいよオリンピック・パラリンピックイヤーが始まります。

昨年は「スマイリングシンデレラの洪野さん」「ノーベル賞の吉野さん」と笑顔が話題になった年でした。本年は眉間にしわを寄せないで、洪野さん、吉野さんのように笑顔を絶やさない1年にしたいものです。

本号は1年のクラブ活動記録の多くを掲載しております。

原稿等にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

広報委員長 石橋恒生